

津ライスニュース 令和元年産第1報

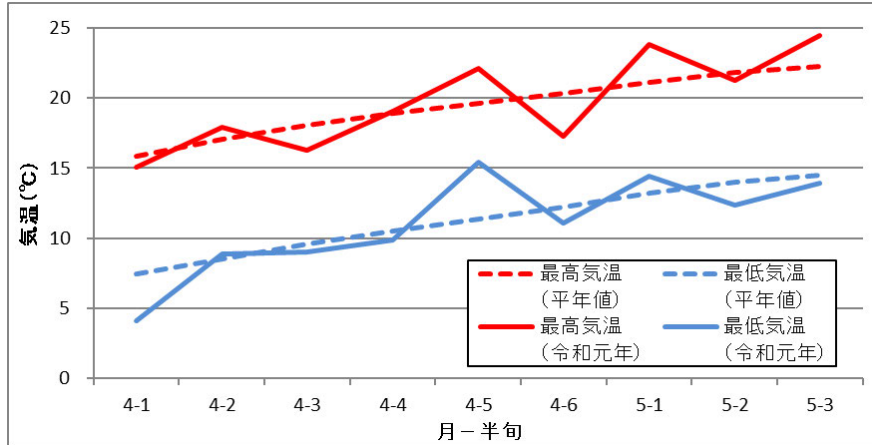
令和元年5月15日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

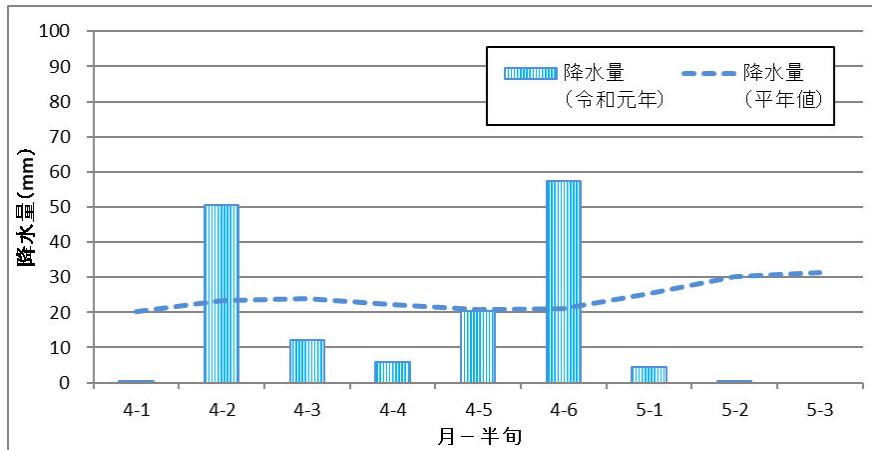
<気温>

4月上旬、5月中旬と最低気温が低い日があり冷え込みました。



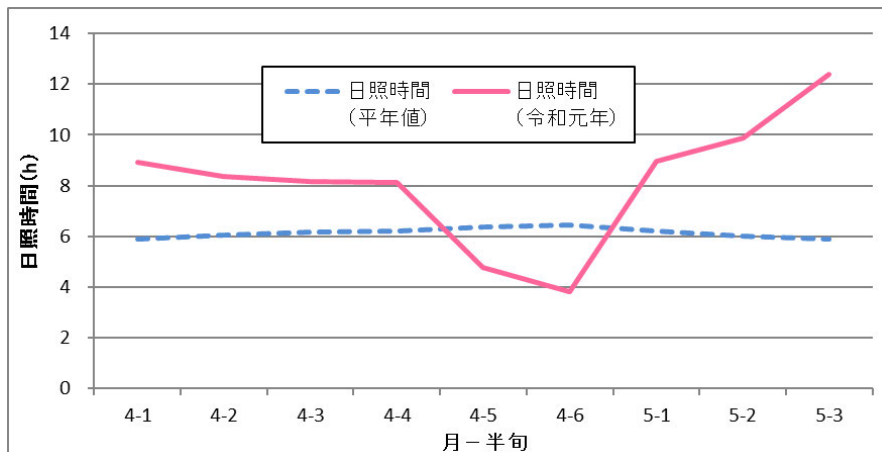
<降水量>

4月10日、30日にまとまった雨が降りましたが、平年より降水量は少ない状況です。



<日照時間>

4月下旬を除き晴れた日が多く、例年より日照時間は多く推移しています。



生育の概況

育苗期間中の寒暖差が大きく、一部でヤケ等の症状や生育ムラが散見されました。3月～4月上旬にかけて降水量が少なく、代掻き時の用水が心配されましたが、4月10日、30日にまとまった雨が降り、田植え作業は順調に実施されました。管内での移植は4月10日ごろから始まりました。

低温や強風により葉先にダメージを受けている圃場が確認されていますので、今後は生育状況に応じた管理が必要です。田植えの早いほ場では、分げつも出始めています。

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

今後、いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えます。現時点では本田での発生は確認されていませんが、今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めにほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。

<害虫(イネミズゾウムシ、イネゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクロカメムシ)>

三重県病害虫防除所の発生予報第1報(4月25日)では、イネミズゾウムシについて、発生時期は平年並、発生量は少と予想されています。山沿いや常発地では今後、害虫の発生増加も予想されますので注意してください。

今後の栽培管理

<中干し>

中干し開始は移植後35日前後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分げつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

6月に入ったら、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとも水管理が楽になります。

***茎数が多い場合** →中干しを早い目に、やや強く行います。

ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。

***茎数が少ない場合** →中干しを遅い目に、弱く行います。

<除草>

4月下旬の降雨や漏水などで除草剤の効果が劣り、ノビエや広葉雑草の発生がある圃場では、早めに中後期剤を散布しましょう(ただし、成分回数や使用時期＝特に収穫前日数に注意してください)。

また、漏生イネの発生が確認されています。遠目からではノビエとの区別が難しいため注意が必要です。対ノビエの除草剤は効果がありません。

※漏生イネ: 収穫時の落ち穂や収穫後の切り株から「ひこばえ(ひつじ)」が再生し出穂・登熟することによって発芽能力を持った籾などが落ち、発芽・成長したもの。

*見分け方

- ・抜いてみて生え際についている種子の殻で判断
- ・葉舌の有無で判断

など



ノビエ



イネ